

これからの放影研での被爆者ゲノム¹研究

放影研はこれまで、原爆被爆者を対象とした調査・研究を通じ、原爆放射線の人体に及ぼす影響に関する重要な情報を提供してきました。現在では、放射線被ばくによって病気になりうる危険性は、被爆者本人がどれだけの放射線量を浴びたか（被ばくしたか）によるということが理解されるようになりました。この調査・研究はさらに発展し、今後は被爆者本人のゲノムに対する影響という新しい視点で調査することができる時代になるものと思われまます。

しかしながら、二世影響（遺伝影響）となると考え方が変わってきます。この場合、親の被ばく線量と子供のゲノム変化および予測される健康影響との関連性を調べる必要があります。

近年のヒトゲノム（人間の遺伝子情報）科学の発展により、長年、放影研内で保管されてきた被爆者や被爆二世のバイオサンプル（主に血液から得られた細胞サンプル）が今後のゲノム解析に有効利用できることが分かってきました。しかし、ヒトゲノム解析は個人の遺伝情報を明らかにすることでもあることから、倫理的な問題もあり、差別の問題にもつながりかねないため、特別な配慮が求められます。そこで、現在、放影研では、将来の被爆者ゲノム研究のあり方について慎重に議論を進めています。

【注釈】

¹ゲノム：

生物の体を形づくる遺伝子 DNA の 1 セットの事です。ゲノム DNA とも呼びます。体を形づくる私たちの細胞はそれぞれがゲノム DNA を持っています。

本資料は、専門家でない方向けに出来るだけわかりやすく解説することを最優先しています。そのため専門的な内容は割愛しており、論文内容を完全に再現しているものではありません。より詳しい内容は専門の学術誌に掲載された論文をご覧ください。